

令和7年度第1回 地域のスポーツ振興に向けた関係者会議（地域スポーツの振興） 議事要旨

1 開催日時

令和7年6月16日（月） 10時00分から12時00分まで

2 開催場所

都庁第一本庁舎19階E会議室

3 出席者

作野誠一委員、川邊保孝委員、小淵和也委員、新島二三彦委員、岩田亜紀子委員、森元俊太郎委員、伊藤祐子委員、諸橋寛子委員、小川高弘委員

4 会議の概要

（1）開会挨拶

（2）委員紹介

（3）議事

【委員の主な意見】

①地域スポーツの課題について

- ・スポーツ少年団では団員数の減少や地域における知名度の低さ、スポーツ推進委員でも数の減少や知名度の低さ等が課題
- ・地域スポーツクラブでは、自主財源の確保、指導者・クラブマネージャーの確保、事務局運営・活動現場の後継者の確保、行政からの認知不足等が課題
- ・東京は地域によってスポーツに対する意識が大きく異なるため、他の都市と比べ、統一的な対策が打ちにくいのではないかと。
- ・都と自治体の間で、この会議における検討内容を共有したり、都が地域の課題を把握したりできるような、相互作用の仕組みが必要

②担い手の確保について

- ・民間団体の資源を活用し、地域スポーツに関わる人を集めていくことが重要
- ・東京はスポーツを実施している企業も多く、そうした資源を発掘できると良い。
- ・日本郵政では、社員が地域のスポーツを支える取組を支援しているほか、部活動の改革を進める自治体を支援する団体を立ち上げ、自治体をサポートしている。
- ・地域スポーツの担い手を新たに確保する以外に、既に現場で活動している人材を有効活用するため、様々な研修会をまとめて実施し、一人で何役もできる方を増やすということも考えられる。

- ・大学が多いことは東京の特徴であり、大学生にスポーツ推進委員になってもらう例も増えてきたが、就職活動や卒業などで、継続的な関わりが難しいという面はある。
- ・大学生は意欲が高いが未熟な面もあり、事前研修の仕組みのようなものがあると良いのではないかな。

③スポーツをする場の確保について

- ・場の確保策としては、公民館やコミュニティ会館等の活用のほか、道路や自宅・公園の活用促進やそのための課題整理が必要ではないかな。
- ・学校開放を進める上では、雨に弱い土のグラウンドの改善、ナイター照明設置による夜間の活用など、学校自体の施設整備もポイント
- ・例えば新潟県は積極的に学校施設を開放して、キーレスのセキュリティをつけて稼働させやすくしている。公共の施設をいかに効率よく回すかが重要
- ・学校によっては、テニスコートを朝や授業時間中に開放している例もある。
- ・今ある施設をどう使うか、これまで活用していなかった施設をどう使うか、両面から考える必要がある。

④部活動と地域スポーツについて

- ・部活動の団体競技が成立しない中学校が生じている一方、自治体ごとに財政状況等が大きく異なるため、外部指導者の確保等の対応が困難な場合もある。
- ・部活動の地域展開によって子供のスポーツ環境が変化しており、地域ごとの課題をどのように解決していくかがポイント